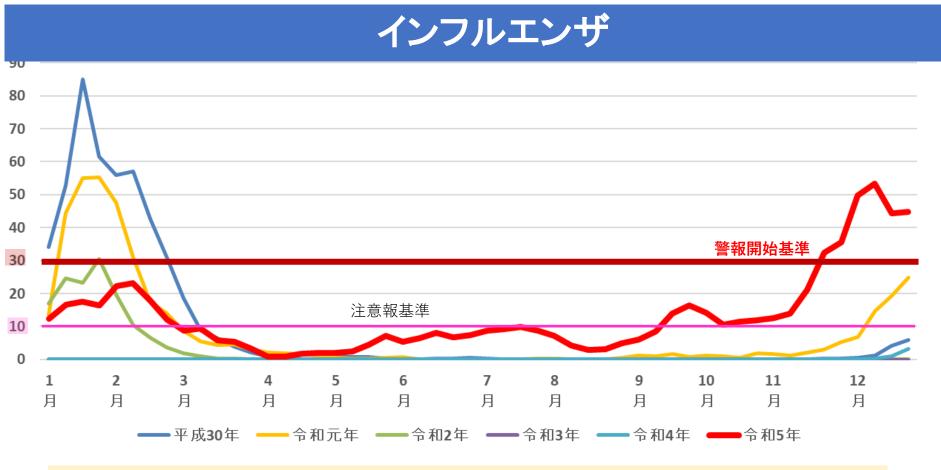
令和5年の感染症動向等について

1 感染症発生動向

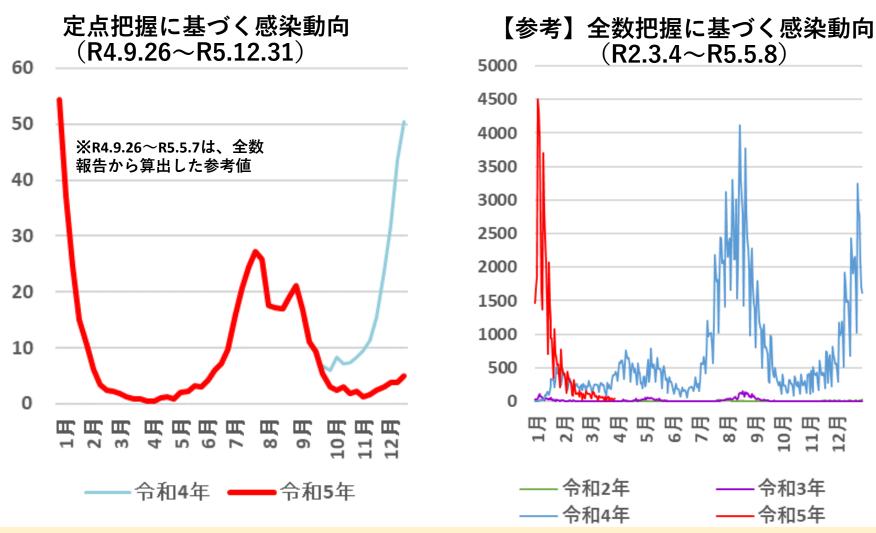
(1) 定点把握感染症【平成30年~令和5年】



例年、12月から3月に流行するが、令和5年は春以降も感染が終息することなく流行が継続。

9月末に流行注意報レベル基準(10)を、11月末に流行警報レベル開始基準(30)を超え、例年より早く本格的な流行を迎えた。

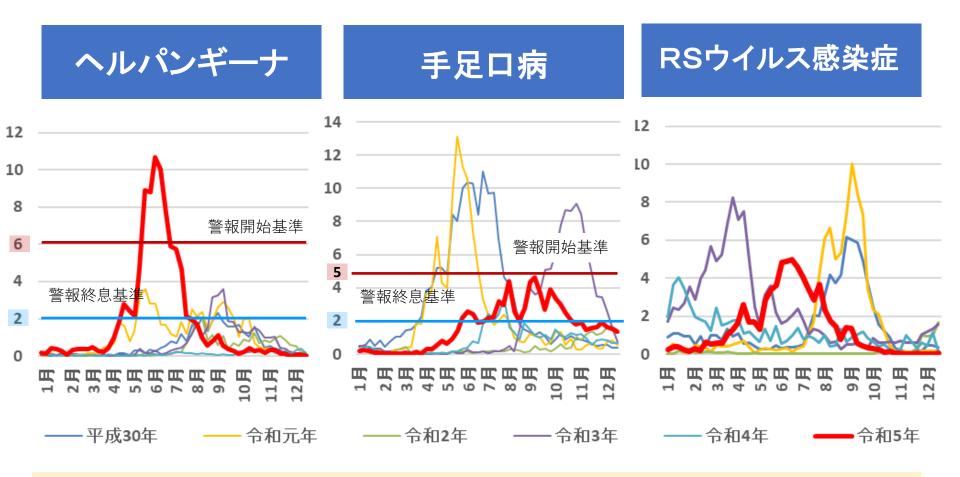
新型コロナウイルス感染症



令和5年は1月に第8波のピークを迎えたが、以後急速に減少。春から夏にかけて再び感染者が増加するも、夏休み入りに合わせて減少傾向に転じた。

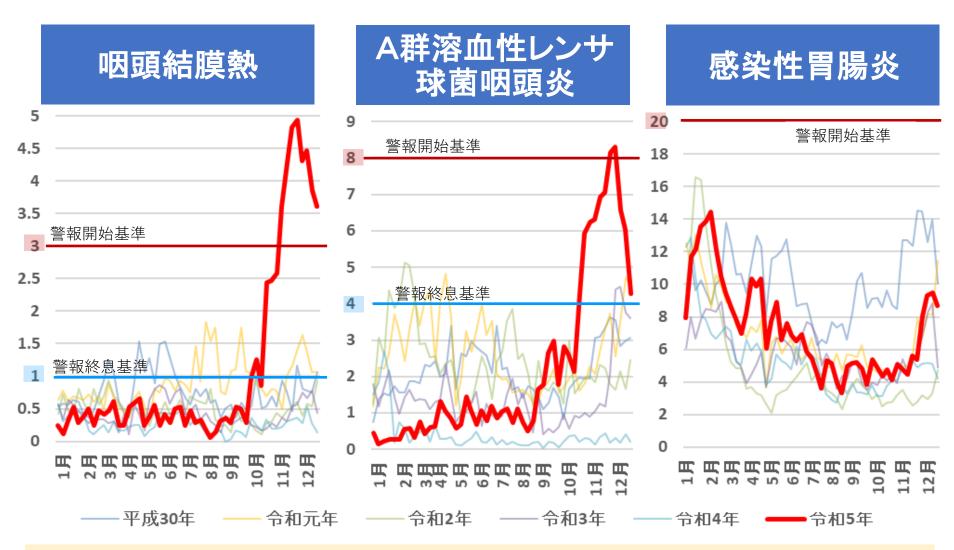
過去3年の感染状況を踏まえ、今冬についても感染拡大が懸念される。

【春から夏に流行した子どもの感染症】



例年、「ヘルパンギーナ」や「手足口病」が春から夏にかけて流行期を迎える。 今年は、「ヘルパンギーナ」の感染が春先より急拡大し5月に警報レベル開始基準を超 え、6月が感染のピークとなった。また、例年秋に流行がみられる「RSウイルス感染症」 も夏の同時流行となった。全国でも同様の流行状況がみられた。

【秋から冬に流行した子どもの感染症】

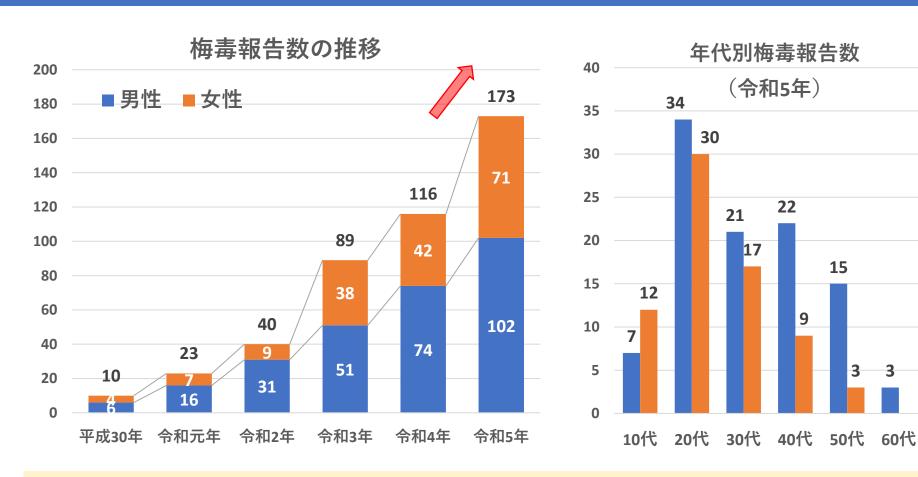


9月以降、咽頭結膜熱とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の感染者が急増し、いずれも警報レベル開始基準を超えた。

さらに、冬にかけて流行期を迎える感染性胃腸炎の流行も懸念される。

(2) 全数把握感染症

梅毒



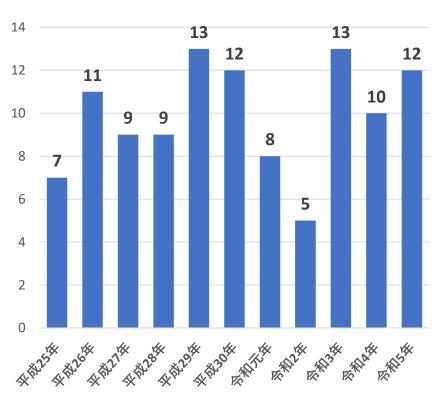
コロナ禍を経て感染者が急増。令和5年は12月31日時点で173件と過去最高の昨年を上回るペースの報告となっている。

男女とも20代の感染者が多く、全年代の約4割を占めている。

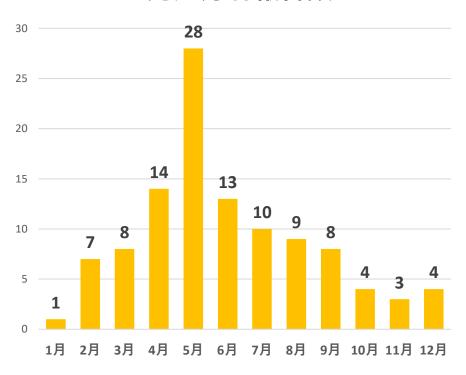
全国的にも梅毒の感染者数は急増しており、今後も感染の拡大が懸念される。

SFTS(重症熱性血小板減少症候群)





発症月別報告数



令和5年の全国の患者数(12月31日時点)は131人で過去最多となっている。 都道府県別では、最多の山口県14人に次いで宮崎県と大分県の12人となっている。 春から秋にかけてマダニの活動が活発になるためSFTSの患者数も増加するが、冬期に活動 するマダニもいるため、引き続き注意が必要。

※SFTSとは、マダニに刺されることにより感染するダニ媒介感染症。

2 令和5年度の対策と取組

- ▶感染症の発生動向の把握
- ▶感染症発生状況の公表
- ▶流行状況に応じた注意喚起と感染対策の周知
- ▶ワクチン接種の促進
 - *新型コロナウイルス感染症
 - *インフルエンザ
- ▶まん延防止のための検査促進
 - *医療機関における梅毒・HIV無料匿名検査の拡充

新子どもを取り巻く感染症緊急対策事業

6月補正

事業の目的

予防接種の勧奨や検査体制の拡充、感染症の知識の普及啓発に集中的に取り組み、風しん等の予防接種率の向上や梅毒等の感染症拡大防止を図る。(事業期間:R5~R6 予算額:24,090千円)

事業の概要

- (1) 事業内容
 - ① 麻しん・風しん緊急対策事業 子どもや抗体保有率の低い男性を対象としたワクチン接種促進のための 普及啓発
 - ② 愛の予防接種助成事業(補助率1/2以内) 妊娠を希望する女性等への風しん予防接種費用を助成する市町村への補助
 - ③ 子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)接種緊急対策事業 HPVワクチン接種促進のための普及啓発(キャッチアップ接種・9価 ワクチン)
 - ④ 梅毒・HIV等性感染症緊急対策事業 梅毒等性感染症に関する普及啓発と梅毒・HIV無料検査相談窓口の拡充
- (2) 成果指標
 - ① 麻しん・風しんワクチン接種率 (第2期) 現状 (令和3年度) 93.7% → 令和6年度 95.5%
 - **HPVワクチンキャッチアップ接種延べ件数** 現状(令和4年度)3,484件 → 令和6年度 30,000件
 - ③ 梅毒の検査数現状(令和3年度)172件 → 令和6年度600件



麻しん・風しん予防接種ポスター・CM



HPVワクチン啓発ポスター・CM



梅毒・HIV検査啓発ポスター・CM



街頭キャンペーン(チラシ等配付)繁華街での大型ビジョン広告